

【君たちは、今日7日(木) 6限が美術の中間テストです】雑学④

2016年の進路通信から

『生誕300年記念 若冲展』東京都美術館

◆伊藤若冲(1716-1800)の生誕300年を記念して、初期から晩年までの代表作を紹介した企画展。若冲が京都・相国寺に寄進した「釈迦三尊像」3幅と「動植綵絵」30幅(宮内庁三の丸尚蔵館)が一堂に会すのはめったになく、また、この展覧会は各地を巡回しなかったもので、美術教師としては見逃せず、5月に夜行バス往復で東京まで行ってきました。

◆若冲は、没後200年にあたる2000年の京都国立博物館「没後200年若冲」展を機に広く知られるようになった。近年では多くのファンに愛され、日本美術の中でもきら星のごとく輝きをましています。(僕の大学時代には再評価されていました。)

◆下段の年表図でもわかるように、若冲は正徳6年(1716年)、京都の錦市場にある青物問屋の長男として生まれました。4代目として父親を手伝いながらも、絵を描くことに夢中だった若冲は、40歳の時に早々に「隠居」し、3歳下の弟に家業を任せ、本格的に作画に打ち込み、特定の師につかず独学で絵を学び、自らの表現を追求する一生を送った。

◆その画風は細密な描写で、描く動植物は生命力に溢れていて、実物と見紛うばかりの美しさに観る人々も魅了される。家業の青物問屋を継ぐことより、絵を描くことを選んだ若冲だが、子供の頃から慣れ親しんだ市場の光景が影響しているのか、若冲の作品には、野菜や魚も多く描かれています。

◆また若冲は、熱心な仏教徒(禅)であり、すべての存在には仏性がある(仏性の中にすべての存在がある)ことを「釈迦三尊像」と「動植綵絵」で表現しました。やっぱり、30幅を一堂に見ると溜息しか出ないね。とにかく素晴らしい、教科書の「群鶏図」も凄いが、「雪中錦鶏図」の色彩・構図の美は、僕は一番だと思う!!

▶ ネット検索してくださいネ。 若冲は、【自分の絵の価値がわかる人を千年待つ】と言ったそうだが、「動植綵絵」は永遠の価値を持ち、本当にそうになっている!!



絹に描かれた「動植綵絵」は裏彩色の技法が使われ素晴らしいし、和紙に描かれた水墨画もステキ! しかし、金碧障壁面の作品は、今一つでした(笑) 不得意だった?

◆この時代の京都の絵師たちには、江戸ではあまり見られなかった琳派などに代表される個性的な作品を描く絵師が多く、とりわけ若冲は流派にとどまることなく、中国画を参考にし、写実的で装飾的な花鳥画や、斬新なタッチの水墨画などでその才能を発揮し、異色の作品を数多く残しています。

江戸中期、京都ではもう一人天才絵師が現れる! 写生画を基本とした円山応挙だ! これまた東京で「開館75周年特別展 円山応挙「写生」を超えて」根津美術館12月18日(日)まで...

ああまた夜行バス往復でいかなあ

応挙や若冲は、四国金毘羅さんでも鑑賞できるよ

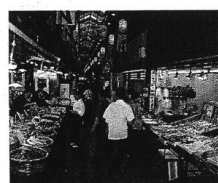
若冲は、19世紀末に誕生した西洋・新印象派の技法をほぼ200年早く編み出し、現代のデジタルアーツ的技法を江戸時代に先取していたとも言われる孤高の天才画家として、世界的にも高い評価を受けています。マス目描き: 1cm四方のマス目(方眼)で描かれているモザイク屏風。「樹花鳥獸図屏風」

相国寺の中に承天閣美術館がある。伊藤若冲による水墨画の傑作である重要文化財「鹿苑寺大書院障壁面」の一部を移設しており、そこに金閣寺の葡萄小禽図などがある。<下図>ぜひ一度、来館を!!

石峰寺は伏見稻荷神社の近くにある。ユニークな五百羅漢を見るとともに、若冲のお墓もあるので、伏見にも訪れてみよう!



生涯と作品



現在の錦市場

1716年、京都の市場、錦小路の青物問屋の子として生まれた。40歳まではこの店の主人として仕事をしながら、唯一の趣味として絵を描いていた。



伊藤若冲像(部分) 相国寺承天閣美術館【京都府】

若冲をはじめは日本や中国の絵を写して絵を勉強した。この絵は中国の文正という人の作品をもとにしている。



白鶴図

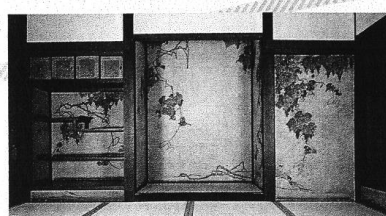
37~38歳ころ



43歳

相国寺には大徳禅師という若冲の友人がいた。そのため「動植綵絵」など多くの作品が相国寺に納められた。

相国寺



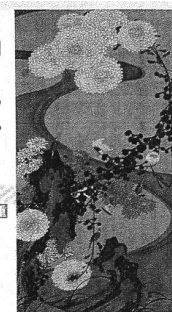
40代から50代ははじめに制作した連作「動植綵絵」30幅は、若冲の代表作となった。得意の鶏のほか、さまざまな動植物が、色鮮やかに描かれている。

鹿苑寺大書院障壁面 葡萄小禽図

1759年(相国寺承天閣美術館に展示)

鹿苑寺 相国寺

相国寺の関連寺院である鹿苑寺には、若冲の障壁面が描かれた。虫食い穴のたくさんある葉や、根や蔓が複雑にからみつく姿が独特。



菊花流水図(「動植綵絵」より)

1765~66年ころ 宮内庁三の丸尚蔵館

49~50歳ころ

石峰寺には、若冲がデザインした五百羅漢という石の彫刻がある。



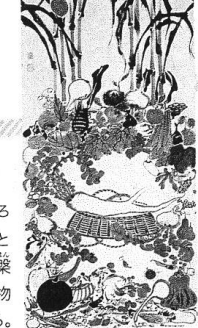
石峰寺石像群

63~66歳ころ

お釈迦様が亡くなるときの様子を描いた「涅槃図」を、野菜を登場人物に見立てて表現している。

東蓮涅槃図

1779~82年ころ 京都国立博物館



84歳ころ

伏見人形図

1799年 山種美術館【東京都】

晩年には石峰寺の門前に住み、京都の郷土玩具である伏見人形をたくさん描いた。

